



第 54 号

令和 5 年 9 月 発行

社団法人化で変わるもの

変わらないもの

元事務局長 水野二三夫

本年度より、現代俳句協会は、任意団体から一般社団法人へと衣替えをしました。要は、法人格を有する世間並みの協会団体になった、ということですが、法人化の大きな目的は、協会の資産保全と社会的信用の担保及び組織活動の活性化を図ることです。

手続的には、任意団体が解散決議をして、その全ての財産、会員及び権利・義務を、新たに設立された社団法人に継承された形をとっています。任意団体であった協会時代の規約などは、廃止されました。以前の状態は、任意団体の結合体であり、協会本部の規約は、一体的な組織運営と共通の会員資格が前提になっていました。(資金的には、個々独立でした。)

それでは、何が変わり、何が変わらないのかを、簡単に見てみます。

① 会員の資格

かつては、本部協会になると自動的に在住地区

の会員にもなるという規約でした。任意団体・現代俳句協会の解散の際に、その全ての在籍会員は、一般社団法人現代俳句協会の会員(法律上は「社員」と呼びます。)となり、併せて各地区の会員としても継続する形とさせていただきましたが、法人化以降は、新規の社団法人入会者は、必ずしも地区会員となるとは限りません。何故ならば、社団法人と各地区の協会とは、全く別個の団体であり、それぞれ独立したものであるからです。従いまして、今後の新規の入会者には、いちいち、お住まいの地区協会の会員にもなるか否かの確認をしていただく必要があります。会員個人が、その選択権を有しています。

一方、各地区に於いては、社団法人の会員以外に、独自の地区会員という資格を与えて、地区固有の活動に参加出来る独自の会員資格者を募集する事が出来るようになりました。ただし、地区独自会員の方々も、是非、社団法人の正会員になって頂くよう、各地区において、それらの方々にお薦め願います。

② 社団法人規約と地区協会の規約

かつては、大枠で協会の組織全体を規定する規約があり、個々の地区協会にもそれぞれの地区協会規約が存在していました。一例として、地区の会長や

事務局長の就任については、協会本部の規約の中で、年齢制限を謳っておりました。今後は、そのような制限は一切無くなりました。地区独自の判断と決議方法によって、当該地区の規約を決めていただきます。

③ 地区活動への助成

端的に云えば、各地区協会は、社団法人とは友好的に提携をしていただく団体であり、その為の契約を、全ての地区協会と締結することを予定しています。従いまして、従来の「地区助成金」は、原則的には存続して行きますが、嘗てのように、協会本部から一方的に助成金を差し出すことは、今後は出来なくなりました。形式的には、先ず地区協会側から一定の原則に基づき助成金を申請し、それを受けた社団法人側では、前記の契約に基づき支払いを実行するというプロセスを執らねばなりません。その為にも地区には是非共、正確で信頼性の高い地区会員名簿(社団法人会員〇〇名、地区独自会員〇〇名)を備置していただく必要があります。

④ 共通の目的たる「現代俳句の振興」

この点は、法人化前でも後でも、全く不変です。社団法人と各地区協会は、共に手を携えて、この目的の為に注力することが求められております。地区協会の繁栄が、すなわち社団法人の未来に繋がります。七十年以上の歴史を有する現代俳句協会には、「俳句自由」という壮大なモットーがあります。会員個々が、互いの俳句を尊重し自由闊達な俳句活動を継続して行くことが、日々の活動に求められていることには変わりありません。

以上

令和五年度 定期総会

令和五年四月三十日（日）十時より 岡山県ゆうあいセンターに於いて出席者二十三名、委任状三十九名のもと開催された。
開会のあいさつ木村ゆきこ会長より「今年から現代俳句協会本部の体制が変わりましたが、岡山県として積極的に活動をしてゆきたいと思っております。」と述べられる。



総会に先立ち令和四年度の新会員三名、五年度新会員一名の紹介、高橋つらら、四宮和美両氏の挨拶があり歓迎の拍手が送られた。
佐野由魚副会長を議長に選出し、次の議題について審議された。

一、令和四年度事業報告

前田宏事務局長より活動内容の報告
令和四年度会計報告

薄和子会計担当より収支決算の報告及び、黒瀬紘子会計監査担当より監査報告

二、令和五年度事業計画

前田宏事務局長より計画案の提示
①定期総会と持寄り句会

四月三十日 岡山県ゆうあいセンター
②おかやま現代俳句句会の新規開催

第一回 六月十一日 岡山県ゆうあいセンター
③第二十八回岡山県現代俳句大会

十月二十二日 岡山県ゆうあいセンター
④第二十四回吟行会

十一月十九日 衆楽園（津山市）
⑤会報発行

・五十四号 令和五年八月
・五十五号 令和六年三月

編集担当より発行予定と協力の要請
⑥役員会 随時

三、令和五年度会計予算

薄和子会計担当より予算案の提示
四、役員改選

岸本順子幹事の退任に伴い新役員に花房典子、保田紺屋氏を選任、承認される。

（新役員体制は別掲）

以上の議題について議事は円滑に進行、すべての承認を得た。

連絡事項として、第六十回現代俳句全国大会への投句と参加の要請、現代俳句年鑑への投句の要請、新会員の推薦の依頼があり総会は終了した。

◇定期総会につき午後より持寄り句会を開催、四年ぶりの開催とあって有意義な交流と研鑽を深めた。（前田 宏記）

岡山県会員の

会員登録について

現在の岡山県現代俳句協会会員につきましては、今年度以降、現状のまま会員の継続が行われることといたしますが、本部と岡山地区とは別組織となります。よって会員の住所、連絡先等の変更、退会がある場合については岡山県現代俳句協会事務局へご連絡ください。

【連絡先】岡山県現代俳句協会 事務局

〒七〇〇九五 岡山市北区今八二二八三〇一 西田方

前田 宏

FAX：〇八六・二四六・〇七六一

メール：gendai@haiku-okayama.com

（一般社団法人現代俳句協会への変更がある場合にも岡山事務局より連絡させていただきます。）

第一回 おかやま現俳句会を終えて

梅の実が色付きはじめた六月十一日(日)、かねてからの念願であった、岡山現代俳句協会主催の第一回の句会が開催されました。これまで総会の後の句会や秋の大会、吟行会などを定期的に開催してきたのですが、もともと身近な形で、初心者の方でも気軽に参加でき、俳句について丁寧に学べる句会を、という声の中での開催でした。岡山市からの参加だけでなく、津山、赤磐、浅口など、県内あちこちから計十九名の参加がありました。現代俳句協会会員以外の参加も四名あり、新しい方と句座をとにもすることができました。

今回の一番のテーマは、得点が集まった句を中心に会を進めるのではなく、全部の句に対してそれぞれに学びを深めていただくことでした。そこで、一人二句の出句について、全句に対しての意見交換をし、アドバイスをいただくことができました。また、参加者全員の顔が見えるよう口の字型に机を配置し、双方向のやりとりができるようにしました。参加者の方からは「勉強になった」「自分の句のどこを変えたらいいのかのヒントがもたらえた」などという声をいただきました。

今後は夏雲システムでの毎月のネット句会との両輪として、三か月ごとのペースでこの

句会を続けていけたらと計画しています。そして現代俳句についてとことん語り合える場を岡山に定着させていきたいと思えます。会員の方はもちろん、初心者の方、これから俳句をやってみたいご友人などにも声をかけていただき、ますます多くの方に出会えることを願っています。

(小西瞬夏)



新役員紹介

◇岡山県現代俳句協会

会長	木村 ゆきこ
副会長	秋岡 宣子
事務局長	佐野 由魚
事務局次長	前田 宏
会計	土屋 鋭喜
会計監査	薄 和子
幹事	加藤 正枝
	黒瀬 琢葉
	小西 瞬夏
	橋本 幹夫
	万波 照世
	花房 典子
	保田 紺屋
	國定 義明
	花房 八重子
	天野 光暉
顧問	永禮 宣子

第41回 中国地区現代俳句大会

あいさつ

会長 川崎益太郎

会長の広島県現代俳句協会の川崎益太郎です。大会開催に当たりごあいさつ申し上げます。

令和二年に、島根県から引き継いだ広島県担当の第38回大会が、新型コロナウイルスの感染拡大のため、集合しての大会を中止し、紙上大会として開催され、続く鳥取県担当の令和三年の第39回の大会も、コロナ感染の関係で、同じく紙上大会となり、続く岡山県担当の第40回大会も、コロナ感染の関係で、同じく紙上大会となり、今回の第41回の大会も、紙上大会となり四年続けての紙上大会となりました。

コロナは、徐徐に終息するものと期待しておりますが、会員の減少化、高齢化、予算面等を踏まえて、今後の大会の在り方については、引き続き、皆様のご意見等を伺いしながら検討したいと考えております。

現俳本部が法人化され、各県俳句協会は任意団体となったことを踏まえると、本部に依存するのではなく、各県現俳の在り方、お互いの結束、意思疎通等をどのように図っていくか、真剣に考える時期に来ているとつくづく感じます。

本大会は、当初から紙上大会ということでご準備等をいただきました。この形式も、コロナ終局後の大会の在り方として、今後とも考えられる大会の一形式だと思います。

書面だけの大会ですが、皆様の熱意により有

意義な大会になるよう期待して、私のあいさつを終わりたいと思います。

入賞作品 (岡山県関係のみ)

毎日新聞社賞

地区に無き西方浄土夕桜

高村 萬青

中国地区連絡協議会賞

十二月八日消しゴム見当たaraぬ

黒瀬 琢葉

秀逸賞

弓持と信長の声冬の月

畦田 恵子

子がなくて空すかすかの鯉のぼり

永禮 宣子

第32回ヒロシマ平和祈念俳句大会

(岡山県関係のみ)

佳作賞

戦わぬ強さを選ぶ葱坊主

黒瀬 琢葉

特別選者賞 植垣規雄賞

兵器そろそろ土筆は高さ競ひ合ひ

万波 照世

会員句集紹介

句集 坊守さん

天野光暉

・令和五年七月二十日発行

・発行所 やまびこ出版

天野光暉氏にとって平成28年以來の第三句集

新樹光おなじ柄着て汝や我

青虫の青よりも濃き糞こぼす

苦うるか吾が目の前に師の健司

令和五年度前期

新会員作品集

令和五年度前期の新会員として、推薦し、承認を得た。ここに作品を特集して紹介にかえる。

■ 柏瀬眞理子／夕月夜

向日葵や被爆電車の走る町
夕焼や別れまであと二十分
シャンパンの泡立ちゆたか天の川
新涼やハートの揺るるラテアート
夕月夜机上に句ふ新刊書

■ 四宮和美／つぶやきの路離 所属〔綱〕

蛇いでて八幡様の二百段
堤防に腰かけてある日永かな
風化して読めぬ墓石や百千鳥
天守へと磔また磔や花吹雲
つぶやきのとどく路離へと春日傘

私の感銘句

伊藤 昇選

秋澄めり奥の宮より人のこゑ 花房 典子

抜ける様な秋天が広がっている。正に秋澄めり。麓の本宮から山頂の奥宮まで参拝に來た。奥宮の方からは先着の人達の賑やかな話し声が聞こえて来る。合流した後の展開までも想像しなくなるような楽しい句である。

ワクチンの予約完了葱刻む

藤野家ひろ

コロナとインフルエンザのワクチン接種の予約を済ませて、一先ずほっとしているところ。気掛りだった事が一つ片付き葱を刻む手もどことなく軽やかだ。コロナもインフルエンザも大過なく終息してもらいたいものだ。

彼岸会や父母と似た顔集ひをり 目賀 紀子

彼岸会に兄弟姉妹、親族が集まって來た。家の仏間にはどの顔も父と母によく似た顔が集まった。血縁とはよく云ったものだ。昔話に花が咲きなごやかな空間が広がる。いつ果てるともなく話がつづく。酒も入り益々盛り上がりつついく。

私の感銘句

片岡 陽子選

まだ誰も触れぬ産毛の桃白し 藤原由美子

岡山県は「フルーツ大国」と云われている白桃は「形」「香」「味覚」薄く黄色みがかつたこの白桃は、他県には類をみない作り手の作品とも云える果実なのです。

触れたところから傷み、とつても「デリケート」なのが特徴です。柔らかに包まれて今、屈いたばかりの「白桃」を前にして、作者は自然に言葉になったのでないでしょうか。

景もよく見えます。そして「香り」さえも伝わってくる様です。そして何か心が豊かに幸せさえも感じる。私も実感としても、共鳴さえ出來ました。

野仏の触れんばかりの赤のまま 前田 宏

「赤のまま」は赤まんまとして、遠い昔のおままごとでした。「詩心」「仏心」「優しさと強さ」を併せ持つ作者。「赤のままは詩ごころ」「野仏は仏ごころ」付いているようについてない。なにげない日常に自然に目を向け優しく寄り添う姿勢が表現されていて共感です。私もこうありたいものと。

私の感銘句

清中 蒼風選

蟬の穴過ぎし青年期の時間 新田 啓

蟬の寿命は「地下に七年地上に七日」などとも言われるが、人間の生命は母の胎内で終える人から百寿を全うする人までさまざまである。光陰矢の如しとも言いが時間の過ぎる早さは主観的な事でもあり、早く感じる時あれば遅く思う時もある。「人生二十年」を合言葉に青年期を謳歌する事もなく戦下に散華した先人や、数多の戦没者の事を忘れてはならないのではなからうか。

この国も戦下の国も春の月 万波 照世

月は春夏秋冬それぞれに趣きの異なる顔を見せてくれ、また見る人のその時の心境によっても変化する。春の月は優しく、柔らかく、ロマンチックなイメージもある。また幼年期、少年期、青年期、壮年期、老年期など見る人の年代によっても思いは違うだろう。

戦下の国の人々は果たして月を愛でる心の余裕があるだろうか。平和な時代の、山紫水明の美しい国の今を生きている幸せをしみじみ噛みしめたいものである。

詠 近 家 諸

池上栄実子

右手 采遊

加藤 正枝

木下闇マリア灯籠や陣屋跡

棘あれど心のもゆる夏あざみ

葉柳の川は昔の栄し跡

父母と畦で結びほおぼる梅雨晴間

紫陽花を植ゑて華やぐ嫁の庭

伊藤 昇

畦田 恵子

岸本 順子

田の面百町一斉に蓮浮葉

朝影に解く蓮の蒼かな

抜きん出て明日咲く蓮の蒼かな

咲き満ちて黄泉を照らせる蓮かな

葩は葉におく風の蓮かな

稲田マヌミ

小川 房子

木村ゆきこ

初夏の風四軒建つという更地

日参の地蔵に先客雨蛙

六月やおぼえた「線状降水帯」

ありつたけ摘んで七つの庭母

ポイント五倍買いだめをする蚊遣香

岩田 志乃

片岡 陽子

清中 蒼風

春コートひらりと旅へ始発待つ

綿菓子のごろがるやうに春の雲

走り根を通るべからず松の芯

植替へし薔薇に力の満ちしかな

文字深く刻まれし碑や青時雨

人の世を潤らさぬためや夏椿

花ミモザ世界にひらくあしたかな

病む人に叱られた日の蟬しぐれ

鈴が鳴る猫さりげなく月の客

一隅にわだつみの像さみだるる

春の虹時の抜け穴見つかりさう

したきことせよと講演五月晴

浮かび出るビルマとふ文字墓洗ふ

弓持てと信長の声冬の月

恙無くわらひの揃ふ節料理

孫といふ背高少年進学す

兄弟姉みーんな逝けり春寒し

兄の葬小さき姫にも逢ふ五月

あらぐさとたたかひをりぬ小さき庭

針持たぬは女子おんなに非ずと亡母秋夜

柿若葉あの日のことは時効です

海の日のかなかなか暮れぬ西の空

満緑や人ややすやすと消されもし

なめくじり利休鼠の雲の出で

悔しさの怒りともなり蟬時雨

花冷えのチャペルの木椅子杏子逝く

街薄暑緩みがちな靴の紐

蝶ふわり折れたあばらの疼き出す

クリームソーダ瀬戸の小島と青い空

セ・シ・ボン肩ひも細きサンドレス

浜屋顔蹠あたりこそばゆき

だまし絵の影にこゑあり薄もみぢ

フルートの少年ひとり秋澄めり

秋なすび指に馴染むや濃紫

夕かなかな百年松に風わたる

無言館囲むひまわり焦げている

瀬戸の島あまねく照らす盆の月

再会のドライマティーニ夜の秋

秋海棠残り時間の真珠色

この先は落人の里曼珠沙華

薔薇真紅そこそこ古りて終の家

老妻と猫と余生の梅雨ごもり

アロハシャツ最後に着しはいつ頃ぞ

電柱の次はいづこへ梅雨鴉

朝顔や波郷この世に在りし日よ

詠 近 家 諸

國富 柿方

草いきれ城趾にのこる穴太積
林間に灯すが如く大揚羽
銀漢に近く葦を立ててをり
秋灯下古寺巡礼の土門拳
ぶどう剥くしどろもどろになりながら

國富 節子

ゆらゆらとかづら橋越ゆ鮎料理
熊蟬の本丸跡を攻めており
青空に未来図ありて背泳ぎす
どこからか琵琶の音もれる星祭
秋うらら埴輪の妊婦はにかみて

倉見 英子

戦争の重き記憶や雲の峰
点滴の針痛点に走り梅雨
一線を越える山麓大雪渓
バンドナや意欲と夏を道連れに
朝顔や眠りを揺する母の声

黒瀬 琢葉

傘かしげ紫陽花にじむ寺の径
断捨離の前に着てみる古浴衣
西に山背負う暮しや夏座敷
お帰りと窓開けておく盆の月
十二月八日消しゴム見当たらず

小峠 幸枝

寒満月とうとう家までついてきた
稜線のけぶり烏城の春の昼
グラナダへ車窓一日の麦の秋
降ろされて深き吐息や鯉のぼり
子の皿にゆうるりゆうるり心太

小西 瞬夏

夜の駅舎青き水母の来てゐたり
俳句部員募集プールの底の青
空蟬を嗅ぐ戦争がかさかさ
蛍籠提げて姉妹の仄暗し
香水をつかひきつたる體かな

小松原陽子

琴の音に時はゆるゆる大名蓮
六月の豆乳プリンすくいとる
泥付きの玉葱提げて友の家
桜蕊降る約束のベンチにも
ラベンダー会えないと知る誕生日

佐藤 千恵

初夢の頬にふれたか獺の息
耳打ちのくすぐったくて春の宵
白鷺と田のあんばいを見てをりぬ
身ほとりの次第に淡し吾亦紅
鯛焼のさめきつてをり反抗期

佐野 由魚

溽暑かなイスに座ればギイと鳴る
駆除されしアシナガバチの美しき
戦時かなめちやくちや高きちりめんじやこ
句会あり無料駐車場驟雨
何となく法の支配や滝落ちる

第31回 西東三鬼賞募集案内

賞

大賞 西東三鬼賞 1名 賞状及び副賞50万円

秀逸 10名 賞状及び副賞2万円

入選 30名 賞状及び記念品

選考委員 寺井谷子 久保純夫 黒岩徳将

応募要領

●雑詠5句1組(未発表作品に限る)

●原稿用紙(A4サイズ)に作品・住所・氏名(ふりがな)・俳号(ふりがな)・職業

(または学校名・学年)・生年月日・電話番号を明記

投句料

1組(5句)につき2000円(定額小為替)

※何組でも応募可

締切

令和5年10月31日(火) 当日消印有効

投句および問合せ先

〒708-8501

岡山県津山市山北520

西東三鬼賞委員会事務局

(津山市観光文化部 文化課内)

TEL..0868-3212121

FAX..0868-3212154

令和5年度 会計予算

自令和5年4月1日～至令和6年3月31日

収入の部

項目	金額	摘要
前期繰越金	269,733	
年会費	65,000	
助成金	130,000	
合計	464,733	

支出の部

項目	金額	摘要
会報発行費	125,000	
会議費	35,000	
通信費	40,000	
印刷消耗品費	20,000	
負担金	26,000	
予備費	218,733	
合計	464,733	

令和4年度 会計報告書

自令和4年4月1日～至令和5年3月31日

収入の部

項目	金額	摘要
前期繰越金	244,936	
年会費	69,000	
助成金	133,000	
育成金	10,000	新会員
總會費	21,000	21名出席
雑収入	71,606	
合計	549,542	

支出の部

項目	金額	摘要
会報発行費	124,300	会報52・53号
会議費	34,864	役員会
通信費	49,355	切手・はがき・送料
印刷消耗品費	27,046	コピー代宛名シール
負担金	26,600	
總會費	7,668	
雑費	9,976	振込通知 手数料
前期繰越金	269,733	
合計	549,542	

上記のとおり報告致します

令和5年4月7日

会計監査 加藤 正弘

黒瀬 琢葉
事務局会計 和子

第二十四回 吟行案内 岡山県現代俳句協会

日時 令和五年十一月十九日(日)
 吟行地 衆楽園(津山市)
 集合 津山市山北六二八
 受付 十時三十分
 会費 二,五〇〇円(弁当・会場費・賞品代)
 申込先 〒七〇八二二六 津山市押入九六
 保田 紺屋
 TEL 〇九〇一三三五八七二七四
 FAX 〇八六八二二二二二九〇

申込締切り 十二月九日(必着グループでの申し込み)

第二十八回 俳句大会のご案内

日程 令和五年十月二十二日(日)
 時間 午前十一時～午後三時三十分
 会場 岡山県ゆうあいセンター(きらめきプラザ)
 会費 二,〇〇〇円
 作品募集 所定の用紙による
 締切り 令和五年八月二十五日(金)必着
 送り先 〒七〇三八二七
 岡山市中区円山四四一
 薄 和子方
 「俳句大会事務局」

現代俳句岡山・第五十四号

令和五年九月一日発行

発行責任者 木村ゆきこ
 発行人 岡山県現代俳句協会
 編集人 前田 宏
 事務局 〒七〇一〇九五五
 岡山市北区今八二二八三〇一 前田宏方
 TEL・FAX 〇八六二二四六〇七六二二

会報他受贈深謝

各県、各地区より会報、句集等、贈呈いただき有難くお礼申し上げます。

▽令和五年度までの岡山県現代俳句協会年会費が未納の方に再度振込用紙を同封しております。ご協力の程よろしく願います。(薄 和子)

▽会報五十四号をお届けします。おかやま現俳句会、秋の吟行会の案内も同封いたしました。会報発行にあたり皆様にはご多用中にも拘わらず、快く原稿依頼にご協力頂き感謝申し上げます。(前田 宏)

事務局・編集部だより

おかやま現俳句会

日程 9月10日・12月3日・3月10日
 時間 13時
 会場 岡山県ゆうあいセンター(きらめきプラザ)